

## タマネギ大規模経営体の育成支援

淡路市のタマネギ生産の約6割を担う大規模経営体を組織化し、機械化体系や安定生産技術を推進した。その結果、大型鉄コンテナによる収穫乾燥体系や乗用収穫体系が導入され、大規模経営体の栽培面積は34.5ha（2016年産）から47.2ha（2019年産）に拡大した。

### 取組の背景

淡路市のタマネギ栽培面積は約60ha（2016年）で、うち約6割を農業法人や集落営農法人等、大規模経営を行う14経営体が担っている。普及センターは、これらの経営体を地域農業の主要な担い手として位置づけ、さらなる省力化と安定生産に向けた技術の導入を支援した。

### 取組内容と成果

#### (1) 大規模経営体の組織化

2016年度に1ha以上の栽培を行う経営体を組織化し、定期的な勉強会を開催した。また、各経営体の課題や今後の展開について調査を行ったところ、規模拡大における安定生産技術の習得が課題であることが分かり、これらをテーマに実証圃を活用した研修会や、実演会等を開催した。

#### (2) 安定生産技術の導入

近年、秋期に降雨が続くことによる定植作業の遅れが収量低下の要因となっていた。そこで、稲刈り後の圃場に排水溝を設置し、表面排水を促す

技術の普及に向けて、島内の先進農家で現地研修会を開催したところ、圃場準備の重要性について理解が深まり、取組が拡大した。

#### (3) 機械化体系の推進

搬出作業の省力化を目的に、大型鉄コンテナによる収穫体系を確立するため、市、JA等の関係機関と連携し、大型鉄コンテナ対応型ピッカー（写真1）の導入を支援した。あわせて、簡易型差圧通風乾燥技術の実証も行い、導入につなげた。さらに、乗用収穫体系について、実演会を通じて現地適応性を確認し（写真2）、トラクタ牽引型掘取機の導入を行った。

#### 今後の方針

引き続き北淡路地域に適した省力・安定生産技術を推進し、タマネギ大規模経営体の課題解決を支援する。

北川 純子（北淡路農業改良普及センター）  
（問い合わせ先 電話：0799-62-0649）



写真1 鉄コンテナ対応ピッカーの導入



写真2 乗用収穫体系実演会

ひょうごの農林水産技術 No.209 (2020.5) ※本内容は、当センターホームページにも掲載

令和2年5月25日

兵庫県立農林水産技術総合センター (0790) 47-2408